

教育委員会だより

第3号

益田市教育委員会より 平成27年12月17日発行



学び舎ますた in 二条 (二条公民館)

益田市立小中学校再編実施計画の見直しについて

学校教育課長 澤江 幸実

平成26年7月25日益田市立学校整備計画審議会に對して諮問された「益田市立小中学校再編実施計画」について、平成27年3月26日、大久保稔会長より益田市教育委員会平谷太委員長に對し、「益田市立小中学校再編実施計画の見直し」について答申を受けました。

見直しに關してのご提言は左記の4項目です。

- ① 学校規模の適正化の必要性から「基本的な考え方」「再編の枠組み」「計画期間」については現計画を踏襲し、見直しを図らない。
- ② 再編の枠組みの中で、使用する校舎が示されていないところについては教育委員会が使用する学校を示し、具体的な協議を進める必要がある。
- ③ 計画実施にあたっては中学校の学校再編を最優先

と考へ、教育委員会内の体制の強化を図り、さらに跡地利用などの地域振興策については市長部局と協力を充実させて進める必要がある。

④ 適正な学校規模の確保について保護者や地域住民に丁寧な説明を行い、十分な理解を得て行う必要がある。

この中の第2項目の「使用する校舎が示されていないところ」について、教育委員会で協議を図り、次のとおり使用する校舎を示しました。

- ① 桂平小・旧美濃小・中西小・旧中西小内田分校・戸田小の5校統合再編後の校舎は中西小学校を使用すること及び、再編校の名称は対策協議会で協議すること。
- ② 東仙道小・都茂小・旧二川小の3校統合再編後の

校舎は都茂小学校を使用すること及び、再編校の名称は対策協議会で協議すること。

③ 西南中・中西中・小野中の3校統合再編後の校舎は中西中学校を使用すること及び、再編校の名称は対策協議会で協議すること。

この内容については、6月23日益田市議会総務文教委員調査会で報告を行いました。

今後、学校再編対象未実施地区に向き、使用する校舎の経緯や再編に向けた説明を保護者や地域住民の方に丁寧かつ誠実に行い、再編に向けてのご理解を得られるよう取組を進めてまいります。

目次

表紙(学校紹介).....	1P
学校教育課長寄稿.....	2~3P
教育情報.....	2~3P
カラフル給食タイム.....	4P
寄付・寄贈のお礼.....	4P

益田鹿足市町教育委員会連合会

新しいALITを紹介します！

教育行政に関しては、政治的中立性・継続性・安定性を確保することを基本とし、全国の都道府県や市町村では、首長の執行機関とは独立した「教育委員会」を設置していることは広く知られていますが、教育に関しては、それぞれの教育委員会に共通する課題を抱えていることも多く、その連携も必要とされてい

ます。そこで、教育委員会間で連合会を構成し、諸般の事項について協議し、共通認識を高めることとしており、益田鹿足市町教育委員会連合会もそのひとつです。この連合会は、益田市・津和野町・吉賀町のそれぞれの教育委員会で構成されており、去る9月27日に総会を開催し、今年度の事業計画など審議しました。

総会に合わせて開催した



研修会では、益田市立横田中学校で、先生方との意見交換や授業参観を行いました。

学校内を視察する機会が少なく中、参加者は積極的に意見交換に臨み、横田中学校の取り組みを興味深く伺い、学校現場が抱える課題等について改めて知る機会となり、有意義な研修となりました。また、真剣に学ぶ生徒の姿に、この地域の明るい未来を感じたところです。連合会では、次回以降も学校施設の視察を継続したいと考えております。

「ふるさと発見。パスポート」に掲載されている全31カ所を全て見学し、満点を達成した鎌手小学校1年の松本愛利さんの表彰式が11月25日、教員室で行われました。満点達成者は久しくなかっただけに素晴らしいことです。

「ふるさと発見。パスポート」は益田市の史跡や文化財のガイドブックです。松本さんは今年の夏休みに家族の方と一緒に見学されました。全て回った時はとても嬉しかったと話していました。



ふるさと発見。パスポート 満点達成者 表彰式



○年齢 22歳

アリサ・貴美子

益田市教育委員会では、この夏より1名の新しいALIT（外国語指導助手）を迎え、4名のALITに市内各小中学校を中心に英語の指導に活躍していただいています。今回は、今夏に新しく迎えたALITをご紹介します。

○名前 プレイン・

○指導校

豊川小・真砂小・戸田小
匹見小・益田東中・真砂中
小野中・匹見中

○本人のからのコメント

こんにちは！私は新しいALITのプレイン・アリサ・貴美子です。貴美子と呼んでください。私の母は日系人で父はアメリカ人です。

私は、アメリカから来ました。出身は、カリフォルニア州のロサンゼルスです。5月に私はアメリカの創価大学を卒業しました。学芸系の大学

ですが、専門は心理学と社会学でした。私の趣味は、バスケットボールとフラダンスです。日本語を勉強するのも好きです。

去年、私は大阪の枚方の関西外国語大学に留学しました。日本の色々な場所に行きました。金沢・沖縄・登別・富良野等です。今回、初めて益田市に来ました。益田市で新しい経験をいっぱいしたいので楽しみにしています。私は、頑張つて生徒たちの英語の勉強を手伝いたいです。

つろうて子育て協議会、推進中！

益田糸操り人形の出前公演が行われました

「つろうて子育て協議会」の推進により、新しい大人のつながりが生まれています。

今年度、豊川地区つろうて子育て推進協議会では「夏休み教室」が実施されました。

毎回、小学生の学習の支援を地域の大人や高校生が行い、時にはスポーツ推進員が運動を教え、昼食は食改の方の指導のもと、子どもたちが自分でご飯を作りました。この他にも子ども神楽の活動、星空観察教室、英会話教室なども開催され、地域の大人の経験を活かした取り組みが行われました。

大人たちは協議会をきっかけに、共に関わり合う体験をし、自分たちの地域を自分たちで豊かにしていく喜びを感じていました。そして、力を合わせることでよりできることが多くなることにも、改めて気付くことができました。



豊川地区「夏休み教室」
昼食作りの様子

また、これまでバラバラに活動していた団体がつながり、協働したことによって、子どもの活動は格段に豊かになりました。人との関わり面からも、地域を知るといふ面からも、子どもたちは豊かな体験ができました。

活動を通して、子どもの成長について語り合い、いきいきと過ごす子どもたちの姿を共有することで、協議会は盛り上がりました。今後の協働の在り方について、熱心に考える雰囲気広がりました。

子どもを中心に、志の縁でつながる大人たちが増えることで、地域そのものも元気になっていきます。

○益田糸操り人形

益田に糸操りが伝わったのは明治20（1887）年と言われています。東京浅草で糸操り人形芝居を興行していた山本三吉が、操り人形の衰退に伴い関西を経て益田に至り、当時盛んであった浄瑠璃の愛好家たちの集まり「小松連」に迎えられたことに始まります。

彼の指導の下に現在の益田糸操り人形芝居は形づくられました。



益田糸操り人形

人形の操法は、使い手が高さ2mの歩み板の上から、丈約70cmの人形の各所

に13〜18本の糸を結び付け、「四つ目」と呼ばれる手板を使って人形に微妙な動きを与えるもので、その操作には熟練を要します。

糸操り人形は、東京の結城座や竹田座によっても継承されていますが、時代とともに操法に変更が加えられています。

一方、益田糸操り人形の操法は古い形を留めており、現在日本で上演されている糸操り人形芝居の中では唯一無二のものと言われています。

こうした価値を認められ、益田糸操り人形は昭和38年7月2日に島根県無形民俗文化財に指定されました。

○市内各所で出前公演が行われています

9月17日に小野地区振興センターにて益田糸操り人形保持者会により、益田



体験の様子

糸操り人形の出前公演が行われました。当日は中学生から高齢者まで約100名の方が来場されました。

公演が終わると来場者が糸操りを体験するプログラムもあり、主に中学生が体験をしました。

保持者会では、国の重要無形民俗文化財への指定を目指し、普及啓発活動に尽力されています。

出前公演の他に、グラントワでも年4回程度定期公演が行われています。

食文化を伝える創意工夫 ～あたたかみある古より伝わる味～

2013年12月に和食が

ユネスコの無形文化遺産に登録されたこともあって、日本の食文化が注目を集めるようになりました。学校給食も今年4月から和食中心の献立に移行しており、児童生徒に家庭での食事でも和食を意識できるよう、日々の献立を工夫するよう努めています。一方で、米の消費量拡大、日本の食糧自給率向上のための有効な手段として学校給食において米飯給食の回数を増やす傾向が強まっており、そうしたことから和食中心の献立が主流となっている状況にあります。



★自然の恵み多い、手作りのふりかけ

美都学校給食調理場では、従来から美都地域の特色を活かした学校給食を届けられるよう取り組みを進めているところですが、9月30日には米飯給食の味により深みをもたらし、手作りの「ふりかけ」を提供しました。

★9月30日の献立
ごはん、ふりかけ、牛乳
オムレツ、クリームシチュー
かいそうサラダ



献立作成：福代 愛

- ・ 益田市奨学金へ寄付
- ・ 梅寿会 様
- ・ 国際ソロプチミスト益田 様
- ・ 高津二丁目 故 浅井 重男 様
- ・ 益田市印刷工業組合 様
- ・ (一社) 茶道裏千家淡交会石見青年部 様

豊川小学校へフラグフットボール寄贈

・ 公益財団法人日本フラグフットボール協会 様

桂平小学校へ児童用一輪車寄贈

・ 公益社団法人 日本一輪車協会 様

美都中学校へ防災遮光カーテン寄贈

・ 美都町 匿名 様

ふりかけは、今から約2000年前の紀元前後、ご飯に塩をかけて食べたのがはじめとされています。そして大正時代の初期、日本人にカルシウムが不足しているという実情から、熊本の薬剤師がカルシウムを補うため、魚の骨を粉にしてご飯にかけて食べる商品を開発したことにより食卓に定着していききました。

当日のふりかけには、日本海沿岸でとれたシラスや昆布、ごま、鰹節など風味豊かで噛み応えのある食材を使用しました。その新鮮さや香ばしさから感じられる味わいは、食が進むとともに奥

深さを増し、献立全体を引き立てる役割を果たしました。日常生活の中で文化的な進歩はめざましいものがありますが、日本に古くから伝わる食文化は長く日本人の心に根付いています。熱いご飯に手作りのふりかけ、とてもシンプルですが、どんなに時代の移り変わりがあろうとも次世代につなげられるあたたかい味です。これからも地域の特色ある食文化を伝えていきます。



国際ソロプチミスト益田 様



茶道裏千家淡交会石見青年部 様